



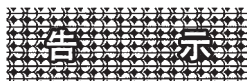
長野県報

6月30日(水)
平成16年
(2004年)
号外

目次

告示

都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例第3条に規定する知事が定める方法(建築管理課)..... 1



長野県告示第417号

都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例(平成16年長野県条例第23号)第3条に規定する知事が定める方法は次のとおりとします。

平成16年6月30日

長野県知事 田中 康夫

1 盛土施工直後における法面の安定性の確認の方法

次に掲げるいずれかの算式によって算出した安全率が1.5以上であること。

$$(1) \quad F_s = \frac{\sum (C \times 1 + W \cos \alpha \times \tan \phi)}{\sum W \sin \alpha}$$

この式において、 F_s 、 W 、 α 、 1 、 ϕ 及び C は、それぞれ次の値を表すものとする。

F_s 安全率

W 円形滑り面上の各分割片の単位長さ重量(単位 1平方メートルにつき重量トン)

α 円形滑り面上の各分割片のすべり面の中点とすべり面を円弧とする円の中心とを結ぶ直線が鉛直線となす角度(単位 度)

1 円形滑り面上の各分割片のすべり面の長さ(単位 メートル)

ϕ 盛土の内部摩擦角(単位 度)

C 盛土の粘着力(単位 1平方メートルにつき重量トン)

$$(2) \quad F_s = \frac{\sum \{C' \times 1 + (W \cos \alpha - U \times 1) \tan \phi'\}}{\sum W \sin \alpha}$$

この式において、 F_s 、 W 、 U 、 α 、 1 、 ϕ' 及び C' は、それぞれ次の値を表すものとする。

F_s 、 W 、 α 及び 1 (1)に定める F_s 、 W 、 α 及び 1 の値

U 円形滑り面上の各分割片のすべり面上に働く間隙水圧(単位 1平方メートルにつき重量トン)

ϕ' 有効応力に関する盛土の内部摩擦角(単位 度)

C' 有効応力に関する盛土の粘着力(単位 1平方メートルにつき重量トン)

- 2 地震の発生を想定した場合における^{のり}法面の安定性の確認の方法
次に掲げるいずれかの算式によって算出した安全率が1.0以上であること。

$$(1) \quad F_s = \frac{r \sum \{C \times l + (W \cos \alpha - k \times W \sin \alpha) \tan \phi\}}{\sum (r \times W \sin \alpha + k \times W \times h)}$$

この式において、 F_s 、 r 、 W 、 k 、 α 、 h 、 l 、 ϕ 及び C は、それぞれ次の値を表すものとする。

F_s 、 W 、 α 、 l 、 ϕ 及び C 1の(1)に定める F_s 、 W 、 α 、 l 、 ϕ 及び C の値

r すべり面の半径 (単位 メートル)

k 設計水平震度 (良好な洪積地盤又は岩盤においては 0.2、沖積地盤のうち軟弱地盤においては 0.3、その他の洪積地盤又は沖積地盤においては 0.25 とする。)

h 各分割片のすべり面を円弧とする円の中心と各分割片の重心との鉛直距離 (単位 メートル)

$$(2) \quad F_s = \frac{r \sum \{C' \times l + (W \cos \alpha - U \times l - k \times W \sin \alpha) \tan \phi'\}}{\sum (r \times W \sin \alpha + k \times W \times h)}$$

この式において、 F_s 、 r 、 W 、 U 、 k 、 α 、 h 、 l 、 ϕ' 及び C' は、それぞれ次の数値を表すものとする。

F_s 、 W 、 α 及び l 1の(1)に定める F_s 、 W 、 α 及び l の値

U 、 ϕ' 及び C' 1の(2)に定める U 、 ϕ' 及び C' の値

r 、 k 及び h (1)に定める r 、 k 及び h の値

(備考) 盛土の内部摩擦角及び粘着力並びに有効応力に関する盛土の内部摩擦角及び粘着力の値は、盛土に使用する土を用いて、現場含水比及び現場の締固め度に近い供試体を作成し、剪(せん)断試験を行うことにより求めること。

建築管理課